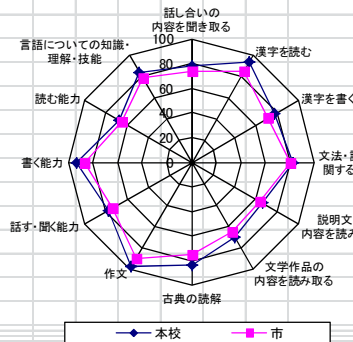


宇都宮市立上河内中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	78.4	74.3
	漢字を読む	94.1	84.9
	漢字を書く	77.8	72.1
	文法・語句に関する知識	82.3	80.5
	説明文の内容を読み取る	66.0	64.6
	文学作品の内容を読み取る	70.3	65.6
	古典の読解	83.3	75.3
	作文	97.3	90.0
観点別	話す・聞く能力	78.4	74.3
	書く能力	93.6	86.8
	読む能力	67.9	65.1
	言語についての知識・理解・技能	84.5	78.6



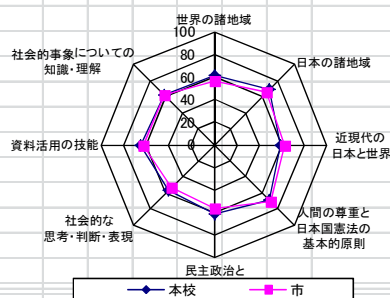
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	・宇都宮市の平均を大きく上回っている。話し合い活動の充実と「聞く力」の育成の継続が成果となって表れている。	・今後も同様の指導を継続していきたい。
漢字	・漢字の書き取りは、朝の学習や授業前の都道府県別入試漢字の実施により語彙力がついた。	・今後も同様の指導を継続していきたい。
文法・語句に関する知識	・文法は単語や文節の理解や文の成分の理解がよくできている。しかし、やや品詞の分類や用言の活用の仕方が理解できていない生徒もいる。	・今後も同様の指導を継続していきたい。また、理解の不十分な生徒には補助プリントを作成し、反復学習に努めたい。
説明文の内容を読み取る	・段落相互の関係や筆者の主張の中心がどこにあるのかを発見する力がやや劣る。説明的な文章が、実は論理的思考を正しく踏んで行われていることへの実感をする生徒が少なかった。	・キーワードを提供することにより、「書く」力を育成する授業展開を多くしたい。また、実物投影機を使用した添削指導なども実施して全体的な底上げを図りたい。
文学作品の内容を読み取る	・小説を読むことを好み、教科書と関連した図書にも親しんで接している。主人公の心情の変化を的確にとらえる力が育ってきている。	・今後とも、関連した文学作品の紹介やブックトークを通して、潜在的学習能力を高めていきたい。
古典の読解	・軍記物語や随筆文などの古典講読を通して、古人の心に迫る学習への興味・関心が高い。助詞や主語の省略を見抜く学習の継続がよい結果を収めた。	・漢文学習に苦手意識をもっている生徒がいる。返り点や漢文独特の言い回しについて、学習便覧などの教材を活用したい。また、視聴覚教材の開発も進めたい。
作文	・2学期から、意図的に作文の学習を授業に取り入れた。年が明けると、自主的に作文の添削を教師に依頼する生徒が急増した。添削指導が作文力の向上につながったと思われる。	・今後も前年度の作文指導を踏襲し、資料として蓄積していきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の諸地域	61.7	56.9
	日本の諸地域	69.2	66.4
	近現代の日本と世界	58.6	62.1
	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	69.9	70.1
	民主政治と政治参加	61.7	56.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.0	53.0
	資料活用技能	64.6	62.7
	社会的現象についての知識・理解	61.8	61.9



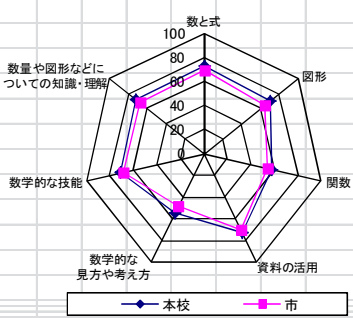
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の諸地域	・全体として、市の平均を上回っている。ユーロについての正答率は92.5%と理解度が高かった。ヨーロッパの国々が、アメリカなどの大国に対抗していくために協力して産業を育成していることへの資料を使用して考察することに関して、市の正答率を10%以上上回ってはいるが、30.0%と正答率が低い。北アメリカ州への理解度は高い。	・ヨーロッパ州について、小国が多いこと、地域により異なる資源や環境条件が異なること、世界経済による地位が低下してきた様子を概観し、ヨーロッパ州の国家間の統合が進められてきた理由や、統合が可能となった理由について、多面的・多角的に考察し表現できるようにしていきたい。北アメリカ州では、地形と農業の関係性の理解を深めさせたい。
	日本の諸地域	・全体として、市の平均を上回っている。北陸地方の自然環境への理解のもと、雨温図を読み取る問題では、正答率80.0%と市の正答率を10%上回った。長野県の農業に関する正答率は、48.8%と市正答率51.4%を下回った。	・中部地方は北陸・中央高地・東海と3つの地域に分けることができ、各地域の特色をまず、しっかり捉えさせたい。中央高地に位置している長野県では、夏でも冷涼な気候を生かした高原野菜の栽培が盛んであるということをおさえさせたい。
歴史	近現代の日本と世界	・市の平均を4%唯一下回った。第一次世界大戦前の国際関係の正答率が27.5%、世界恐慌が各国に及ぼした影響についての正答率が28.8%とこの2項目が低かった。逆に、日中戦争に関しては96.3%と高い正答率になっている。	・第一次世界大戦の背景を、帝国主義などの考えをもとに説明できるようにさせたい。アメリカが第一次世界大戦の被害を受けずにその後繁栄し世界への影響力をもったこと、そして世界恐慌がおこり、その後の欧米諸国の対応、第二次世界大戦へとつながっていく流れをしっかりと捉えさせるようにしたい。
公民	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	・0.1ポイント市の平均を下回った。憲法改正についての理解度が市の正答率が43.2%に対し、37.5%と低かった。公共の福祉や新しい権利の正答率はそれぞれ60.6%、86.3%と高かった。	・立憲主義と日本国憲法の基本原理を理解し、自分たちの生活と最高法規としての憲法の関わりについて関心をもたせることにより、実際に憲法を改正する場合の手続きを身近なものとして捉えるようにしたい。
	民主政治と政治参加	・市の平均を上回っている。特に、小選挙区制についての理解をもとに選挙のシュミレーションをするという問題では、市の正答率が39.2%だったのに対し、本校は68.8%と高い正答率であった。	・選挙は国民が政治に参加する重要な機会であることを理解した上で、様々な選挙制度についてシュミレーションを用いた体験的な学習をここでは展開した。体験的な学習により、生徒達の理解を深めることに繋がったのかもしれない。今後ともこのような学習方法を積極的に取り入れていきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	72.2	69.6
	図形	70.4	65.2
	関数	57.5	54.1
	資料の活用	72.5	70.3
観点別	数学的な見方や考え方	54.3	48.7
	数学的な技能	71.0	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	71.6	67.5



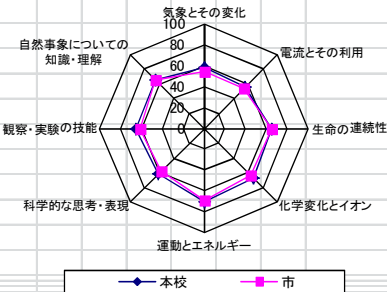
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	多項式の展開、因数分解、平方根の基本的な計算は多くの生徒ができるようになってきているが、やや複雑な計算になると正答率が低くなっている。 2次方程式については、ほとんどの問題で正答率が市の平均を上回っているが、平方根の考えを使って2次方程式を解く問題や、文章題の正答率はかなり低い。	共通な因数をくりだし、さらにかっこの中を因数分解する問題は、繰り返し指導しているが、気が付かない生徒が多いので、反復練習を続けていきたい。 文章題を苦手としている生徒が多いので、立式からじっくり取り組みさせ、活用する力を身につけさせていきたい。
図形	三角形・四角形の性質を用いて角度を求める問題、証明問題、相似であることを利用して線分の長さを求める問題については、市の平均を上回っている。	2年生の学習内容にさかのぼって、図形の性質について復習、整理させ、定着を図りたい。
関数	全体的には市の平均を上回っており、基本的な内容は理解している生徒が多い。活用の問題については、正答率は低い。	関数の意味や表、式、グラフの関係をしっかり理解させ、それを活用する問題に取り組む機会を多く設定していきたい。
資料の活用	確率を求める基本的な問題である。市の平均をやや上回っている。	基本的な問題に対しても、樹形図をかかせ、丁寧に取り組ませることで、理解を深めていきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	気象とその変化	57.7	54.0
	電流とその利用	56.6	53.8
	生命の連続性	65.2	65.0
	化学変化とイオン	67.1	64.2
	運動とエネルギー	70.6	69.2
観点別	科学的な思考・表現	61.3	58.2
	観察・実験の技能	65.3	61.1
	自然事象についての知識・理解	65.4	64.6



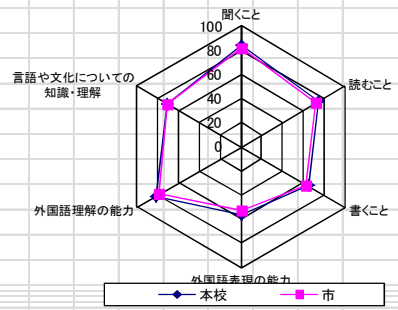
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
気象とその変化	全体的に、雲ができる過程についてはよく理解できている。低気圧付近の気象についての理解が浅い。	露点と飽和水蒸気量の関係について、理解不足の生徒が見られるので、グラフの読み取り方も含めて、さらに指導をしていく。 低気圧付近の天気や風向など読み取り方を指導する。
電流とその利用	全体的に、理解度は高い。電力量や電流が磁界から受ける力を利用した器具について、理解不足の生徒が見られた。	オームの法則に関わる計算や電力量の計算など、さらに練習が必要である。また、モーターの仕組みなどを、簡単に説明できるくらい理解させたい。
生命の連続性	全体的に、理解度は高い。生物の成長の仕方について若干理解不足が見られる。	細胞分裂や卵割などを、言葉で説明できるくらいの理解をさせたい。
化学変化とイオン	全体的に理解度は高いが、電気分解をする物質の種類によって理解がまちまちである。 また、原子については、その構造はほぼ理解できているが、イオンについては、やや理解が不足している。	電気分解の実験と化学反応式をしっかりと結びつけた学習が必要である。 原子については、電子の出入りについて、さらに深い学習をさせたいところである。
運動とエネルギー	市の理解度と比較すると劣っている。斜面上の物体の運動などの物理現象を、科学的に説明できるまでの理解に達していない。	実験時間の充実と、実験後に作図を通して理解するまでの丁寧な取り組みが求められる。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	83.9	81.7
	読むこと	75.2	72.2
	書くこと	64.8	62.8
観点別	外国語表現の能力	56.3	53.0
	外国語理解の能力	81.4	78.1
	言語や文化についての知識・理解	69.9	70.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	リスニング能力の向上に対しては、授業に定期的なリスニング対策を盛り込んできたため、平均を上回ることができた。	左記の通り、今後も取り組んでいくことが有効と考える。
読むこと	一昨年度はこの項目だけが平均点を下回ったため、昨年度に引き続き、教科書中心の読解力向上学習を増やしたところ、引き続き平均を上回ることができた。	多種多様な英文に触れる機会を増やす時間がとれなければ、同じ英文を何回も繰り返し読解するだけでも学習効果が上がると考え、ドリル的な学習の機会を増やした結果であろうと考えられる。今後もそのように取り組んでいきたい。
書くこと	例年、この中でも英作文能力が低い現状があるため、会話が中心だったALTとのT-Tにおいてもネイティブスピーカーからの英作文直接指導や、自分の考えを英語で述べるスピーチの時間も確保した。また、毎時間の単語テストの時間も取り入れた。	例年は大幅に平均点を上回る結果であったが、今年度は多少の上回りとなった。これは上記「読むこと」が、1年生の時に平均点を下回ったため、その指導に力を入れすぎた結果であろうと考えられる。バランスよく指導をする難しさと必然性を、英語科教員全員で考えなければならない。